

初期「労働者教育協会」の地方活動

—「レディング労働者階級高等教育促進協会」を中心に—

土井 貴子

(2003年9月30日受理)

Local Work of the Workers' Educational Association in the early 20th Century in England:
The Establishment and Activities of the Association for the Advancement of
the Higher Education of the Working Class in Reading

Takako Doi

Albert Mansbridge, who was a member of Co-operative Society, founded WEA in 1903. The objective of the WEA was to promote higher education of working-class men and women primarily by an associated effort on the part of Co-operative Societies, Trade Unions, and University Extension Authorities.

This paper aims to reveal on the local activities of the WEA Reading Branch. The Reading Branch was founded by the effort of Childs, principal of University College, Reading, H. T. Pugh, secretary of the Reading Education Committee, and Reading Co-operative Society. Any working class organizations represented within Reading district could become affiliated to the Reading Branch on payment of an annual fee. The Reading Branch was administrated by the Council which consisted of representatives of the affiliated working-class bodies. The Reading Branch received support from University College, Reading and Reading Education Committee.

The Reading Branch planned and provided lectures, classes, and tutorial classes. The contents of these courses were 'liberal studies', such as history and literature. A number of working-class men and women in Reading district were able to gain the opportunity for higher education by the Reading Branch.

Key words: WEA, Reading Branch, the history of Adult Education, working class

キーワード：労働者教育協会，レディング支部，成人教育史，労働者階級

はじめに

19世紀末から20世紀初頭におけるイングランドの成人労働者は、多様な学習機会を有していた。たとえば、1880年代から地方自治体や学務委員会によってイブニング・クラス、夜間学校、夜間補修学校が開設され、読み書き算術、外国語、歴史、経済、科学、簿記、タイプライティング、シティズンシップなどの多様な科目が提供された。その他にも成人学校や、生活協同組合などの労働者組織が提供する教育機会などがあった。

1870年代からは、大学拡張講義が組織され始めた。大学拡張講義は、大学教育から排除されていた労働者階級の人々と中流階級の女性に対して大学人や若き大卒者が講師として地方を巡回しながらおこなう講義などからなる学習機会であった。大学拡張講義は成人労働者も対象としていたが、実際にそこに参加できた労働者階級の人々は、財政的問題および労働条件や学習環境から生じる困難のために限られていた。労働者階級への高等教育の普及は20世紀初頭の課題の一つであった。こうした依然として労働者階級の人々が大学拡張

講義にも参加できない状況を克服しようと組織されたのが、労働者教育協会 (Workers' Educational Association : 以下 WEA と略記) であった。

WEA が設立された20世紀初頭は、様々な労働者階級の団体があり、積極的に活動を展開していた時期であった。熟練労働者だけでなく、不熟練・半熟練労働者が自らの賃金の増額や労働条件の改善を求めて組織した労働組合、共同購入による質のいい商品を安く販売する店舗を運営する生活協同組合、後の労働党となる「労働代表委員会」などの労働者組織があった。このような労働者組織の成熟が WEA 設立の基盤となった。

WEA は、1903年に生活協同組合員であったアルパート・マンズブリッジ (A. Mansbridge) によって設立された¹⁾。同協会の目的は、生活協同組合、労働組合、大学が協力し、連携することで現状の労働者階級の教育状況を改善し、広く彼らに高等教育を普及させることにあった。この目的に賛同し WEA を支えたのは、多様な労働者組織および大学からなる加盟団体であった。WEA は加盟団体の中から選ばれた労働者組織の代表者、大学人、地区組織の代表者を委員とする執行部 (executive committee) によって会費と寄付を財源として運営される団体であった。

WEA については、日本でも宮坂、小堀・真野、矢口、松浦らによる研究がある²⁾。イギリスではプライス、ストークス、レイボールド、ジェニングス、マリオット、フィールドハウス、ゴールドマン、ローズらによる研究がみられる³⁾。さらに、2003年に設立100周年を迎えて、WEA の歴史についての冊子や研究書が出されている。最近の WEA 研究の特徴の一つは、地方組織の活動に焦点があてられ、研究が深められていることである。これまで地方組織に関するものは、ロングトン支部やロッジデール支部といった有名な地方支部についての研究しかなかったが⁴⁾、バターシー支部やウェスト・ミッドランドの地方支部の研究が新たに出された⁵⁾。また、ウェールズやスコットランドにおける地方組織の活動についての研究も出されている⁶⁾。

WEA 研究において地方組織が対象とされるようになったのは、地方組織が自立していたことによる。地方組織は中央から地域へという指導のもとで設置され、活動を展開したのではなく、各地域で自発的に組織され、独自の議決機関を有し、活動を展開した。特に初期の地方組織は、学習要求の強い地域で組織され、強力な支援者および労働者階級の支援団体を有し、地域の実情にあった教育活動を展開した。WEA による労働者階級の成人教育の展開をよりいっそう具体的に明らかにするためには、地域の実態に即して考察する必

要がある。

本稿は WEA による成人教育運動の地方展開の一事例として「レディング労働者階級高等教育促進協会」

(The Association for the Advancement of the Higher Education of the Working Class in Reading : 以下「レディング協会」と略記) をとりあげる。レディング協会は、WEA 最初の地方支部である。同協会の規約は WEA の年次報告書に掲載され、他の支部のモデルともなったと言われている。また、レディング協会の特色は、地域の生活協同組合や大学拡張センターを基盤として設立された他の初期の地方支部の多くとは異なり、労働者階級の教育に関心を持っていた複数の団体が連携、協力した点にある。

レディング協会については、創設50年を記念して当時の協会代表がまとめた小史とモーリーによる協会設立におけるレディング生活協同組合の役割を明らかにした研究がある⁷⁾。本稿は、これらの研究をふまえて、WEA の地方組織の構造を把握し、その上でレディング協会の設立と活動を明らかにすることを目的とする。

本稿では、まず WEA の協会組織を概観し、地方支部であるレディング協会について具体的に考察する。レディング協会創設の背景となった19世紀末からの労働者階級の高等教育の状況を検討し、レディング協会設立に関わった人々が労働者階級の教育についてどのような考えをもっていたのか、彼らによってどのような協会組織が形成され、そこでいかなる活動が展開されたのかを考察する。主たる史料としてはレディング協会の執行部議事録、WEA 年次報告書、WEA 発行のパンフレット、地方新聞を用いる。

1. WEA の組織

WEA は、協会を通じて全国の生活協同組合、労働組合そして大学を連携、協力させることで、大学拡張講義をできる限り多くの成人労働者の手に届くよう拡大することを主要な目的としていた。この目的を実現するためには、地域での活動を全国的に展開することが重要であった。WEA は、各地で WEA を広く知らしめ、支持をえるための会議を開催するとともに、地域の労働者の要望に直接応える地方組織を徐々に形成していった。

WEA の地方組織には、地区当局 (District Authorities) と地方支部 (Local Branches) があり、両者とも1904年から組織され始めた。地区当局は、1904年8月にエクセターにおいて南西部地区が、10月にはマンチェスターにおいて北西部地区が組織された。その後、ミッドランド地区 (1907年)、南ウェールズ地区 (1907-

8年), 北東部地区(1910年)が漸進的に組織された。1920年代前半には13の地区当局があった。

他方地方支部は, 1904年10月にレディング協会が, 1905年3月にロッチデール支部が組織され, 数年のうちに全国各地に設立されるにいたった。支部数は, 1907年に47に, 1913年には158に急増し, 第一次大戦中はわずかに減少したが, 1919年には219に達した。また, スコットランドやウェールズにも地方支部が組織され, 1905年にはグラスゴーにスプリングバーン支部が設立されている。

WEAは当初から中央当局(Central Authority)—地区当局—地方支部という組織を想定していたのではない⁸⁾。地方組織を形成していく過程で, 実態として地区当局と地方支部が組織されていった。地区当局と地方支部の違いは, 設立時の支援団体によっていた。地方支部はその都市あるいは町の生活協同組合や大学拡張センターなどが設立の基盤となったが, 地区当局は生活協同組合の地区組織などが中心となって創設された。例えば, 北西部地区は生活協同組合による教育活動が盛んな地域であり, 地域の各生活協同組合の代表者によって運営される北西部生活協同組合教育委員会(North-west Co-operative Educational Committees Association)が北西部地区設立に中心的な役割を果たした。また, ヴィクトリア大学(マンチェスター), リバプール大学, リーズ大学が北西部地区設立の会合に参加し, 地区委員会に代表者を派遣した⁹⁾。北西部という広い範囲での組織ができたのは, マンチェスターなどの産業都市では規模が大きいためまとまりにくく, 地方支部の設立が困難であったことにもよっていた¹⁰⁾。

地区当局と地方支部の役割は次第に分かれていった。まだ地方支部があまり組織されていない段階では, 地区当局の主要な役割は, 地方支部の設立と広報活動であった。北西部地区の事例によると, 設立当初は代表者数名が地区内の様々な会合に出席し, 演説を行うといった広報活動を展開し, 支援団体を獲得し, 地方支部を設立していった。1907年には13支部が組織された。それが, 1908年には資金不足のため, 新たな地方支部の設立が地域で財源の確保も含めて自発的に組織される以外は控えられるようになり¹¹⁾, 北西部地区の役割は変容した。WEAが認知され, 一定程度地方支部が組織されると, 地方支部によって広告活動や講義やクラスなどの学習活動が実施されるようになった。そのため北西部地区は, 地区の協議会において地方支部の代表者が集まり, 情報を交換し, 困難について話し合う場を提供することとなった¹²⁾。

WEAは地区当局および地方支部が各地で設立されるようになった1907年に規約を改正し, それぞれの組

織の役割を定めた。地区当局および地方支部は, 中央当局と同様に労働者階級への高等教育の推進を目的とした「地区の団体と個人会員の連合体」であり, 独自に個人会員および加盟団体を募り, 年会費を徴収し, 協議会によって運営され, 「規約の条項にしたがう, 自立した団体」であることが定められた。地区当局は中央当局に対して, 地方支部は地区当局に対して規約の承認を得て, 年会費を支払い, 年次報告書を提出しなければならなかった。また, 地区当局は中央当局の, 地方支部は地区当局の協議会に代表者を送ることができた。それ以外では, 地区当局および地方支部は規約に従う限りにおいて, 独自に資金を調達し, 活動を展開できた¹³⁾。

地区当局および地方支部は自立性が尊重され, ほとんどすべての権限がゆだねられていた反面で, 活動を展開するための資金を独自で集めなければならなかった。設立当初のWEAは中央当局—地区当局—地方支部というピラミット型のなかで各組織が自立おり, 同一の目的のために緩やかに結びつく団体であった。

2. レディング協会の設立

レディングはロンドンとオックスフォードの中間点に位置し, 1901年時点でおよそ72,000の人口を擁する特別市であった。産業都市であり, ビスケット製造, ビール醸造, 種子産業の全国的な企業があった。また交通の要所で, 鉄道, 郵便の中継地点となっていた。レディングの町の中心には, 工場労働者, 鉄道労働者, 郵便・電信労働者, 農業技術者といった労働者たちが住んでいた。

(1) 労働者階級の高等教育状況

19世紀末のレディングには, 成人労働者の高等教育に強い関心を有する団体が2つ存在していた。レディング・ユニバーシティ・カレッジ(University College, Reading)とレディング生活協同組合(Reading Industrial Co-operative Society)である。

レディング・ユニバーシティ・カレッジは, オックスフォードによる大学拡張運動から派生した大学拡張カレッジ(University Extension College, Reading)として1892年に誕生した。設立当初の目的は, 大学拡張講義以上の実際にオックスフォード大学で提供されているような体系的で深みのある教育を地域で提供することであった¹⁴⁾。大学拡張カレッジは, 1902年にユニバーシティ・カレッジとなった。

1903年頃のレディング・ユニバーシティ・カレッジは, 文学部と科学学部の2学部, 農業と園芸, 芸術,

音楽、イブニング・クラスの4学科で構成されていた。これらの学部、学科のうち、昼間に職を有する成人労働者でも学ぶことのできたイブニング・クラス学科では、語学、文学、科学、製図、音楽、工芸、商業技術といった講義科目が開設されていた。イブニング・クラス学科では、一定の科目を数年間にわたって学ぶことで、カレッジが発行する資格証明書を取得できたり、ロンドン大学の入学試験や教育院の試験などの試験準備ができたり、商業上の実務を学ぶことができた。その他に音楽のコースがあった¹⁵⁾。この頃のイブニング・クラス学科は、一連の講義科目を体系的に学び、資格取得を目指す学生や商業に役立つ技術を求める学生を対象としていた。そこでは、大学拡張講義に参加していた労働者階級の人々が求めていたような自らの生活状態に密接に関わる歴史や経済といった科目は開設されていなかった。

地域住民を対象としたものとしては、大学拡張講義と公開講義 (public lecture) が実施されていた。1903年度に開設されたのは大学拡張講義が1コース、公開講義が2コースのみであり、それらのコースのうち設定された時間や受講料の問題から多くの成人労働者が容易に参加しえたのは、ハドソン・ショー (Hudson Show) による歴史の公開講義だけであった¹⁶⁾。一般の成人労働者が実際に学べる機会は、限られていた。

レディングにおいて労働者階級の教育に積極的であったもう一つの団体は、レディング生活協同組合である。同組合は、3名の熟練農業技術者によって1860年に設立され、1904年の時点では6つの支部と8つの店舗を有する消費生活協同組合となっていた。レディング生活協同組合は、組合員に対して多様な教育活動を独自に計画、実施していた。それ以外にも、ユニバーシティ・カレッジと協力し、上述のイブニング・クラスに組合員とその家族が参加できるよう取り組んでいた¹⁷⁾。

レディングには高等教育機関であるレディング・ユニバーシティ・カレッジがあった。また、レディング生活協同組合のような高等教育に強い関心を持ち、すでにその会員を対象としてカレッジと協力関係にある労働者組織があった。さらなる成人労働者への高等教育の普及のためには、特定の組織に限定されない、できるだけ多くの成人労働者が体系的な高等教育を容易に受けることができるよう準備する必要がある。

(2) レディング協会の設立過程

WEAの創設は、レディングの労働者階級の高等教育に関心を持っていた人々にとって現状を改善する可能性を持っていた。WEAは、マンスブリッジが1903年の1月、3月、5月に『大学拡張ジャーナル

(University Extension Journal)』において「生活協同組合、労働組合主義、大学拡張」と題する記事を發表したことを契機として、同5月にマンスブリッジの私邸で暫定的に創設された。1903年8月にはオックスフォード大学において大学拡張のサマー・ミーティング期間中に最初の会合が開催され、役員が選出され、公的に活動を開始することとなった。

レディング生活協同組合はWEAの設立に対して即座に対応し、先のオックスフォードでの会合に2名の代表者を派遣した¹⁸⁾。その2ヶ月後にはWEAに加盟した。初年度にWEAに加盟したのは、わずか11団体であったことから、レディング生活協同組合がWEAに賛同し、直ちに行動したことがわかる¹⁹⁾。

一方、レディング・ユニバーシティ・カレッジの学長であったチャイルズ (W. M. Childs) とレディング教育委員会の事務局長であったピュー (H. T. Pugh) が、レディングの労働者成人教育の発展について話し合っていた1904年夏に、設立から1年を迎えていたWEAを知った。チャイルズとピューがどのようにWEAおよびマンスブリッジと交渉したかは不明であるが、WEAが教育に関心を持っている労働者による自主運営の恒久的な組織を作ることを提案し、WEAに加盟していたレディング生活協同組合がレディング協会創設に向けての会合を招集する責任を負った²⁰⁾。

1904年10月1日に会合が開催された。パーマー・ホールにおいてレディング生活協同組合が主催し、WEAが後援した「労働者階級の教育」をテーマとする会合であった。この会合においてWEA、生活協同組合、労働組合、レディング・ユニバーシティ・カレッジ、レディング教育委員会など、レディングの労働者階級の教育に関わるすべての団体の代表者がはじめて一堂に会することとなった²¹⁾。

会合では最初にケンブリッジの大学拡張講義で歴史の講師をつとめるとともに、パーマンズィ・セツルメントで活動し、労働者の状況をよく知っていたホンター (Honter, R. F.) が労働者階級のための高等教育について演説を行った。彼は、大学は国民的な機関であって、すべての階級に対して開放されていなければならないと述べるとともに、すべての階級の人々は大学教育を受けることができるだけの準備をしていなければならないと主張した。だが現状では、労働者階級の中には大学教育を受ける準備ができていないばかりか、受けることを望まない人々がいると述べ、彼らを惹きつけ導き、かつ他の教育団体と協力をしながら、学習機会を提供する地方組織の必要性を訴えた²²⁾。

続いてチャイルズがレディングの教育状況について報告を行った。彼は、労働者階級の教育を2つに分類

した。一つは人生における競争をうまく勝ち抜き、賃金の増額をめざす「パンのための学習 (bread studies)」である。もう一つはどのように生きるのかという生き方を学ぶ「教養のための学習 (liberal studies)」である。チャイルズは、レディングには多様な教育機会があるが、カレッジあるいはレディング教育委員会が実施しているイブニング・クラスは実用的科目に偏っていること、特にカレッジで実施しているイブニング・クラスでは教養のための学習が決して十分ではなかったことを認めた。その上で、この運動に期待をよせており、成功させるには熱意と適切な組織と利用できる知識や経験を活用することが必要であると述べた。チャイルズは、ユニバーシティ・カレッジが様々な種類の教育の場として設立され、そのなかに市民のための教育 (civic education) の場も含まれることから、労働者の教育の発展にも努めてきたと主張した。カレッジは労働者の教育において実績を有しており、かつこの目的のために今まで以上に取り組む用意があると明言し、そのためにはカレッジと労働者との協力が不可欠であると強く訴えた。

この会合では、ホントーとチャイルズの演説を受けて、労働者組織の代表者や大学人、議員など9名が労働者階級の問題と改善点について発言した。

レディング教育委員会のピュー (Pugh, H. T.) は、レディングの既存の教育機関に労働者の関心をむけさせることが重要であると述べ、その目的のためであるなら喜んで最大限の支援を行うことを約束した²³⁾。カレッジや教育委員会の代表者たちは、労働者の高等教育における最大の問題を労働者の中に教育の必要性を十分に認識しておらず、それらの学習に参加しようとしないう人々あるいは参加したくないと思っている人々がいることであると捉えていた。

会合に出席した労働者組織の代表者たちは、このような労働者の関心が乏しいという意見を認めつつも、さらに2つの見解を主張した。一つは、労働者の抱える生活上の問題である。南部地区生活協同組合のディーンズ (A. Deans) は、労働者たちが生活に必要なわずかの賃金を得るために一日中労働を強いられている状況にある中で、彼らが高等教育をうけたいと望むことを期待するのは困難であるという現状を述べた。時間的余裕がない、過酷な肉体労働の後で学習するゆとりがない、財政的に余裕がないという状況を考慮すべきであり、そうした状況で教育意欲を高めることは容易ではないことが主張された。

二つ目は、現状の教育制度についてである。社会主義団体である社会民主連盟 (Social Democratic Federation) のホジソン (J. F. Hodgson) は多くの

子どもたちが今後も勉強したいという願望を持たないで学校を去っていることを指摘し、すべての子どもたちが少なくとも16歳までは学校にとどまって学ぶ必要があり、現在の基礎教育制度の状況に満足すべきではないと述べた。また、ディーンズは、大学は国民的な機関ではなく、一部の恵まれた人々のものであり、このことを改善するためには政府が、基礎学校から大学に進み、学ぶことができるよう整備する必要があると主張した。そして、なによりもまず基礎教育の改善を指摘した²⁴⁾。会議のテーマは労働者階級の教育問題であった。チャイルズやピューはレディングの公立基礎学校はすばらしいという見解を述べた。これに対して労働者たちは、高等教育だけでなく、基礎教育も改善すべきであると主張した。

こうした労働者の教育をめぐる議論をへて、最終的には成人の高等教育問題の改善を目指す方向に向かっていった。ホントーが演説の最後に提示した、小委員会を設置し、労働者階級への高等教育の問題についての今後の活動を検討するという決議が採択された²⁵⁾。労働者組織、カレッジ、教育委員会の代表者が委員に選出された。翌月ふたたび開催された会合の場で小委員会は、新たな団体を組織することとその規約案を提示した。この提案は承認され、続いて役員を選出がおこなわれ、レディング協会が設立されるにいたった²⁶⁾。

(3) レディング協会の目的

レディング協会設立の目的は、その名称からもわかるようにレディングにおける労働者階級の高等教育の促進であった。この目的の実現に向けて、規約に示された方法は3つであった。

第一に、レディング・ユニバーシティ・カレッジのイブニング・クラスとレディング教育委員会が管轄するイブニング・クラスを支援することである。第二に、「歴史、文学、芸術、科学、シティズンシップ、そして音楽といった教養のための学習への労働者階級の関心を刺激し、促進するよう奨励すること」である。第三に、高等教育に限らず教育一般についての要請を教育委員会や地方自治体におこなうことである。

規約作成に主導的な役割を果たしたチャイルズは、11月30日にパーマー・ホールにて行った協会の意図と目的についての演説のなかで学習要求の喚起と情報の提供を主張した。その理由として、レディング協会がユニバーシティ・カレッジやイブニング・スクールと比して建物も基金も組織も持っていないことをあげ、独自に組織的な教育活動を展開するよりも労働者を惹きつけ、学習要求を喚起することが重要であると主張した。彼らが要求する学習機会が十分でない場合に、

彼らがそのような機会をもてるよう努めることができると述べた²⁷⁾。

レディング協会は、労働者階級の教育にすでに関わっている様々な団体と連携、協力し、既存の学習機会、特にイブニング・クラスに成人労働者を参加させることを規約においても最初にかかげ、最も重要視していた。しかしながら、実際はレディング協会が独自に成人労働者の生活状況にあった学習機会を組織する方向へと進んでいった。

(4) 協会の組織・運営

レディング協会の組織は、代表、事務局長、会計（各1名）からなる役員と執行部、協議会（Council）で構成されていた。協会には個人と団体がそれぞれ加盟することができた。個人会員の場合16歳以上であれば、16ペンスの年会費で、団体の場合レディングの労働者階級の団体であれば、2シリング6ペンスの年会費を支払うことで協会に加盟できた。初年度の個人会員は236名、加盟団体は13団体であった²⁸⁾。

協会の運営は、規約で決められた組織上、加盟団体の代表者を中心として行われるようになっていた。協議会は、加盟団体がそれぞれ年会費の額に応じて最低でも1名、最高3名まで選出する代表者で組織された。協議会の役割は、協会の活動報告および会計報告への質疑と承認、活動に関する提案、そして協会の運営の中心である執行部の委員の選出にあった。執行部は、協議会から選出された10名の委員以外に、役員3名とレディング・ユニバーシティ・カレッジ学長のチャイルズおよびレディング教育委員会事務局長のピューの合計15名で構成された。チャイルズとピューは、職務上の立場から委員になることが規約において規定されていた。

協会の加盟団体は規約によってレディングの労働者階級の団体に限定されていた。それら団体によって選ばれる協議会および執行部の委員は、チャイルズとピュー以外はすべて加盟団体の代表者であった。レディング協会は労働者自身の手で運営される団体を目指した。この点において、レディング協会はWEA中央当局や地区当局とは異なっていた。中央当局や地区当局では、労働者組織のみならず大半の大学の大学拡張当局が加盟し、労働者と大学人とが共同で運営にあたっていた²⁹⁾。レディング協会は生活協同組合、労働組合の代表者が中心となって運営する団体であった。

レディング協会は個人会員と同時に労働者組織の加盟を認めることで、できるだけ多くの労働者を惹きつけようとしていた。労働者は、個人会員としてよりも自らが所属している生活協同組合および労働組合といっ

た労働者組織を通じてレディング協会の活動に参加した。このことは一方で財政的問題を生じさせた。財源として個人会員からの会費収入は見込めなかった。1910年度の協会の収入は、大半が教育委員会からの補助金で20ポンド、その他にチケット代約7ポンド、加盟団体約6ポンド、会費約2ポンド、募金約13シリングの総額で約35ポンドであった³⁰⁾。協会の収入は決して多くなく、初期の協会は毎年赤字を出していた。

レディング協会の場合は他の地方支部と異なり無償の会場を確保できなかった。レディング生活協同組合は適切なホールを持っておらず、レディング・ユニバーシティ・カレッジは町から遠かった。そのため、町の中心部にあるパーマー・ホールを借りて、協議会や学習活動、年次集会を行っており、その賃貸料がかなりの負担になっていた³¹⁾。初期の協会は、深刻な財政的問題を抱えていた。

3. レディング協会の教育活動

レディング協会の活動は、できるだけ多くの労働者階級の人々に対して高等教育機会への参加をうながす広告活動と講義・クラスの提供であった。広告活動では、レディング協会が実施する講義、クラスについてのチラシやポスター、講義のプログラムや内容についてのパンフレットを毎年作成し、配布していた³²⁾。協会が実施する学習活動の広告以外にも、ユニバーシティ・カレッジおよびレディング教育委員会が実施するイブニング・クラスの広告もおこなっていた。前述のようにレディング協会は、イブニング・クラスを支援することを目的に掲げていた。そのためレディング協会は、会員証に教育委員会管轄下のイブニング・クラスやユニバーシティ・カレッジの公開講義の広告を掲載している³³⁾。

広告活動と同時に、講義・クラスの提供も主要な活動となっていた。レディング協会は、労働者の状況にあわせて講義やクラスを計画、実施した。

(1) 講義・クラスの実施

レディング協会は、1回限りの講演的なものから数回連続のものまで労働者たちの学習要求や生活状況にあわせた講義やクラスを実施していた。毎年10月から3月までの全19週にわたり、水曜日に講義やコンサートを開催した。それらは、仕事を終えてから参加できるよう配慮され、夜8時15分という遅い時間から町の中心部にあるパーマー・ホールで行われた。講義テーマは、歴史、歴史的人物、文学、経済、外国事情、化学など様々で、毎回異なっていた。1905-6年度の参加

者数は平均150名、最大で400名にのぼった³⁴⁾。

経済学、文学、歴史などのクラスも毎年実施していた。これらのクラスはたいいてい6回連続の講義からなり、クラスによってはエッセーの作成や試験も行われていた。講師はユニバーシティ・カレッジの教師たちがつとめた。1905-6年度に実施されたチャイルズを講師とする「17世紀レディングの歴史」の出席者は平均で17から20名であった³⁵⁾。

レディング協会のクラスは、その形態という点において、大学拡張講義と同様であったが、受講者数という点ではそれとは異なっていた。レディング協会の実施するクラスは、受講者数20名前後でも実施された。一方、受講料収入により運営された大学拡張講義では、受講者一人あたりの受講料を低額におさえるためには受講者を100名以上集めなければならず、活発な討論をおこなえない点においてその規模が問題となっていた³⁶⁾。小規模でも開講されたレディング協会のクラスでは、講師と受講者同士がお互いの顔や人物を知り、理解できる関係のなかで講義や討論をおこなうことや、ときにはエッセーの指導などが可能であった。レディング協会は、創設当時から労働者階級の人々の要望に沿った講義やコンサート、また大学拡張講義では実施しえなかった小規模のクラスを毎年実施していた。

(2) チュートリアル・クラスの実施

WEAによる教育活動の最大の特質は、1908年から実施されたチュートリアル・クラスにあった。それ以前は各地方支部において大学拡張講義などが提供されていた。それが、1906年頃から少人数でより体系に学びたいという要望が参加者から出されるようになり、チュートリアル・クラスはそうした声にこたえて、WEAとオックスフォード大学とによってまずロッジデールとロングトンで組織された。チュートリアル・クラスは、その後数年のうちにWEAの各地方支部とイングランドの大半の大学との連携のもと、急速に全国各地で実施されるにいたった。1913年度には145のクラスが組織され、3,343名の学生が学んでいた³⁷⁾。

チュートリアル・クラスは、大学からの代表者と労働者側からの代表者からなる合同委員会によって組織、実施され、10月から3月まで毎週、年24回3年間にわたって講義と討論により同一の講義科目を継続的、体系的に学ぶクラスである。1クラスの学生数は30人前後が適正とされた。学生は特別な事情がない限り毎回出席することが義務づけられていた。また、2週間に一度のわりあいエッセーを作成し提出することや、チューターによって指示された関連参考文献を読むなどの予習や復習が求められた。チュートリアル・クラ

スは、オックスブリッジの優等学位レベルの水準を目指すこととされた。チュートリアル・クラスは、チューターが学生に対して密接な学習指導と生活・道徳指導をおこなう伝統的な大学での教育の中核であるチュートリアル・システムをもとにしていた。

チュートリアル・クラスは教育院による補助金と寄付を主要な財源としていた³⁸⁾。初期のクラスでは学生から受講料を徴収しなかった。労働者階級の人々は、チュートリアル・クラスによって小規模のクラスで3年間にわたり継続的に大学レベルの教育を無料で受けることができるようになった。

レディング協会もユニバーシティ・カレッジと連携してチュートリアル・クラスを実施した。ユニバーシティ・カレッジの地域史のリサーチ・フェローであったステントン (F. M. Stenson) を講師とする「中世イングランドの産業史」のクラスが1910年から、また1912年からは英語・英文学の教授であったモーリー (Edith J. Morly) を講師とする「英文学」のクラスが開始された。

ステントンのクラスの初年度の登録学生は40名、最終年度である3年目の登録学生は32名であった。3年目の学生の職業は以下の通りである。

男性：ビスケットの工場労働者4名、鉄道労働者1名、自動車車体整備 (motor body trimmer) 1名、自動車車体製造 (motor body maker) 1名、電気機械工1名、指物師1名、植字工1名、庭師2名、路面電車検札員1名、生活協同組合店舗店員3名、衣料品店店員1名、卸売りたばこ商1名、広告貼り1名、ダンス教師1名、教師2名、鉄道事務員1名、銀行事務員4名、就学督促委員1名、女性：教師2名³⁹⁾

学生の多くは肉体労働者であり、およそ3分の1が教師と事務員であった。上記のデータは特定のクラスのものであり、一例にすぎないが、様々な職業に従事している労働者がクラスに参加していたことがわかる。また、高等教育を受けることができる労働者層の一定程度の広がりを見てとれる⁴⁰⁾。例えば、1909年度のユニバーシティ・カレッジのイブニング・クラス633人の学生の職業は、教師119名、事務員92名、植字工10名、エンジニア8名、電気エンジニア4名、店員4名、庭師3名、大工指物師2名、指物師2名、ビスケット工場マネージャー1名であった。ここではレディングの労働者に特徴的なビスケットの工場労働者や鉄道労働者は一人もみられなかった⁴¹⁾。チュートリアル・クラスでは、厳しい肉体労働に従事していたビスケット

工場労働者や鉄道労働者も学ぶことができた。

学生の学習の様子については、講師であるステントンやモーリーが記録を残している。ステントンは、初年度のクラスのエッセーについて報告している。いくつかの例外はあるが、平均的なエッセーは、書物を読み、そこから事実を公正に組みなおし、論じられていたと評価した。エッセーの水準は書くにつれて上がっていき、年度当初に課されたエッセーの水準よりも終わる頃のエッセーの水準の方が確実に高く、クラスの中で最もすばらしいエッセーは、かなりの水準であったと述べている⁴²⁾。

モーリーは自伝の中でクラスの様子を回想している。それによると、講義に続けておこなわれる討論は、いつもカレッジが閉まる時間までに終わらなかったという。しばしば残っていた学生全員が彼女の自宅に移動し、夜11時かそれより遅くまで続けられ、そうでない場合でも、たいてい1人か2人がついてきて、講義の内容に限らずあらゆる問題を議論した。クラスの日には、必ず誰か学生が彼女の家に立ち寄ることが習慣となっていた⁴³⁾。チュートリアル・クラスの学生達は熱心に学んでいた。チュートリアル・クラスは、チューターと学生との密接な人間関係が基盤となっていた。

クラスの評価についてモーリーは、「まれな場合を除いて、目標とされたオックスブリッジの優等学位レベルの水準に達していたとは思わないし、それが可能であったとも思わないが、少なくともそれに匹敵する価値あることが成し遂げられた」と述べている。モーリーのクラスでは、クラス以外でもみんなで演劇を鑑賞したり、クラスが開かれな夏の間学生たちが本を集め、本棚を作成し、読書会を実施した。このような一連の学習を通じて、学生の多くにとって彼らの「人生がより豊かで充実したものになった」とモーリーは確信している⁴⁴⁾。

このようにチュートリアル・クラスにおいて学生が熱心に学ぶことができたのは、一つには彼らが学ぶ際に絶えずつきまとっていた受講料の問題を解決できていたことが大きい。ステントンによる「中世イングランドの産業史」のクラスの初年度の運営は、個人からの寄付と教育院からの補助金によっておこなわれた。28ポンドの寄付と22ポンド8シリングの補助金によって、講師への給料や一週間オックスブリッジで学ぶことができる大学拡張のサマー・ミーティングへの奨学金が支払われた⁴⁵⁾。次年度からはレディング教育委員会からも補助金が支給されるようになった。

チュートリアル・クラスの学生にとって最大の問題は、時間の確保であった。ステントンは、学生が自宅でエッセーを書く時間を確保するのは困難であったと

報告している。また、学生がクラスに毎週出席し続ける時間を確保することも困難であった。ステントンのクラスの出席率は68.3%であった。主な欠席理由は、残業や夜勤、季節労働、学生自身あるいは家族の病気、失職などがあげられている。また、レディングの外への転居、骨折・病気、残業といった理由から途中でクラスを辞めなければならない学生もいた⁴⁶⁾。学生にとってクラスに参加し、出席し続けることはけっして容易なことではなかった。

チュートリアル・クラスの学生達は、受講料がかからないとはいえ、なぜ厳しい条件の中で、英文学のような直接生活の役に立たないクラスで学び、討論し、エッセーを書いたのであろうか。モーリーは、クラスの学生達の学習動機について以下のように述べている。

彼らの唯一の目的は、自分自身のなかに文学の喜びを見出すことにありました。試験に合格するといった問題や社会的利益をえるといった問題は生じませんでした。そういった人々（学生）は、今までほとんど奪われてきた本に親しむことを切望していたのです⁴⁷⁾。

モーリーは、14歳かあるいはそれよりも早く突然学校を去らなければならなかった多くの学生たちが、チュートリアル・クラスにおいて自分自身をみかくために頭をつかい、本や抽象的な思考から得られる喜びを自分自身で見出すことで刺激を受けたと述べている⁴⁸⁾。

チュートリアル・クラスは、賃金の増額や生活の物質的な向上をもたらす「パンのための学習」ではなく、「教養のための学習」であった。それは、幅広く一般的な知識を身につけるのではなく、3年間にわたって一つのテーマについての講義を受け、討論をし、エッセーを作成することで自分自身で思考し、分析し、表現する能力を身につける学習であった。レディングにおけるチュートリアル・クラスは、ロッチデールやロングトンでのチュートリアル・クラスと同様に、チューターとの密接な人間関係のもと、厳しい条件の中で熱心に学ぶ労働者の高等教育の場であった。レディング協会においてもチュートリアル・クラスは教育活動の中核となった。

まとめ

以上本稿では、WEAの地方組織を概観したうえで、レディング協会を事例として取りあげ、WEAによる労働者成人教育の実態を地域の中で考察した。

WEAは、中央当局、地区当局、地方支部で構成さ

れ、それぞれが個々に個人会員や加盟団体を募り、加盟団体から選出される協議会を有し、会費と寄付によって運営される自立した組織の連合体であった。WEAの地方組織は、労働者階級への高等教育の普及という共通の目的を持って緩やかに連携し、それぞれの規約に従い、独自に地域において活動を展開した。

初期の地方組織は、WEAに賛同する生活協同組合や大学人が中心となって各地域で自発的に組織された。レディングの場合は、レディング生活協同組合、レディング・ユニバーシティ・カレッジの学長、レディング教育委員会の事務局長が中心となってレディング協会を設立した。教育活動に熱心な生活協同組合の存在、大学拡張運動の伝統とユニバーシティ・カレッジの存在、適正な規模の産業都市であったことなどの要因から、最初のWEA地方支部がレディングに誕生した。

レディング協会は、地域の労働者組織のみを加盟団体とし、それらの組織の代表者によって運営されることで、労働者組織を通じて労働者を惹きつけ、彼らに高等教育を普及させることを目指した。同時に、労働者組織のみでまとまるのではなく、労働者組織、カレッジ、そして教育委員会による三者の協力と連携を重視した。それにより、レディング協会では成人労働者に対する高等教育の普及において問題であった公的補助金の獲得、高等教育機関との密接な協力関係の保持、複数の労働者階級の団体が支援し運営する協会の実現が可能となった。

レディング協会は、ユニバーシティ・カレッジの教師を講師として、労働者の要望や生活状況にあわせた講義、クラス、チュートリアル・クラスを実施した。その形態は、1回限りの講演的な講義、コンサート、大学拡張講義と同様の数回連続の講義などからなるクラス、3年間にわたるチュートリアル・クラスと多様であった。そこでは歴史、経済学、文学といった教養のための学習が提供され、強い教育要求を持った成人労働者が学んだ。

本稿でとりあげたレディング協会は一つの事例であり、WEAによる地域での労働者階級の成人教育の展開を全体的に明らかにするためには、現在明らかになっている地方支部の活動と比較考察する必要があるが、それらについては今後の課題としたい。

【注】

- 1) WEAは、もともと労働者高等教育推進協会 (the Association for the Promotion of the Higher Education of Working Men) という名称であった。1906年に女性会員たちからの男性 (working men) という表現に対する批判を受けて、名称を変更した。
- 2) 宮坂広作「Albert Mansbridgeと初期 W.E.A.」『英国成人教育史の研究II』明石出版、1996年、小堀勉、真野典雄「イギリス」、小堀勉編『欧米社会教育発達史』亜紀書房、1975年、矢口悦子『イギリス成人教育の思想と制度—背景としてのリベラリズムと責任団体制度』新曜社、1998年、松浦京子「義務と自負—成人教育におけるシティズンシップ」小関隆編『世紀転換期イギリスの人びと—アソシエーションとシティズンシップ—』人文書院、2000年、同「拡張講義運動と労働者教育—統治する者のための教養教育」山本正編『ジェントルマンであること—その変容と近代—』人文書院、2000年。
- 3) Price, T. W., *The Story of the Workers' Educational Association from 1903 to 1924*, London, 1924; Stocks, M., *The Workers' Educational Association: The First Fifth Years*, London, 1953; Raybould, S. G., *The W. E. A. — the Next Phase*, London, 1949; Jennings, B., *Knowledge is Power: A Short History of The W.E.A. 1903-78*, Hull, 1979; Marriott, S., *University Extension Lecturers: the Organization of Extramural Employment in England, 1873-1914*, Leeds, 1985; Fieldhouse, R., "The Workers' Educational Association", id. (ed), *A History of Modern British Adult Education*, Leicester, 1996; Idem, "The Ideology of English Adult Education Teaching 1925-50", *Studies in Adult Education*, Vol.15, September 1983; id., "Conformity and Contradiction in English Responsible Body Adult Education 1925-1950", *Studies in Adult Education*, Vol.17, October 1985; Goldman, L., *Dons and Workers: Oxford and Adult Education since 1850*, Oxford, 1995; idem, "Intellectuals and the English working class 1870-1945: the case of adult education", *History of Education*, Vol.29, No. 4, 2000; Rose, J., "The Whole Contention Concerning the Workers' Educational Association" *The Intellectual Life of the British Working Class*, America, 2001; idem, "The Workers in the Workers' Educational Association 1903-1950", *Albion*, Vol.21 No.4, 1989.
- 4) Lowe, R. A. "The North Staffordshire Miners' Higher Education Movement", *Educational Review*, Vol.22, No.3, 1970.
- 5) Creighton, S., "Battersea and the formation of the Workers' Educational Association", Roberts, S. K., "The Evolution of the WEA in the West Midland, 1905-26", Roberts, S. K. (ed.), *A Ministry of Enthusiasm, Centenary essays on the Workers' Educational Association*, London, 2003.
- 6) Duncan, R., "Ideology and Provision: the WEA and the politics of Workers' Educational Association in Early Twentieth-century Scotland", Lewis, R., "The WEA and Workers' Education in Early Twentieth-century Wales", Roberts, (ed.), *A Ministry of Enthusiasm*.
- 7) Souch, W. J., *The History of the Reading Branch of the Workers' Educational Association 1904-1954*, Reading, 1954; Morley, B. J., *Reading Co-operative Society and the founding of the first branch of the Workers' Educational Association*, Master Thesis, Master of Arts Twentieth Century Historical Studies Degree, 1996.
- 8) 地方委員会 (local Committee) を地域に組織することを想定し、規約に定めていた。An Association to

- Promote the Higher Education of Working Men (以下 APHEWM と略記), *Official Report of the Joint Conference between Co-operators, Trade Unions, and University Extension Authorities, hold at Oxford on Saturday, 22nd, 1903*, London, p.7.
- 9) APHEWM, *Second Annual Report, List of Members, and Statement of Account*, July 1st, 1905, p.8-10, 13-14.
- 10) Workers' Educational Association (以下 WEA と略記), *Fifth Annual Report and Statement of Accounts*, July 1st, 1908, p.24-5.
- 11) *Ibid.*
- 12) 地区当局の活動が活発になるのは1924年以降である。1924年の成人教育規則によって地区当局までがいわゆる責任団体となり国庫補助金を受け取れるようになった。この時期の地区当局についての考察は今後の課題とする。
- 13) WEA, *Fourth Annual Report and Statement of Accounts*, July 1st, 1907, p.43-4.
- 14) Holt, J. C., *The University of Reading: the first fifty years*, Reading, 1977 p.2; Macrae, I., "The making of a university, the breakdown of a movement: Reading Extension College to The University of Reading, 1892-1925", *International Journal of Lifelong Education*, Vol.13 Number1, 1994, pp.7-8.
- 15) University College Reading (以下 UCR と略記), *Calendar of the Twelfth Session, 1903-1904*, Reading, 1903, pp.170-196.
- 16) *Ibid.*, pp.212-213. ハドソン・ショウによる歴史のコースは、わずか6ペンスの受講料で1903年1月から3月まで隔週で夜8時から合計6回開催された。その他のコースは、開始時間が午後3時であったり、受講料が5~7シリングと高額であった。
- 17) レディング生活協同組合は、子どもを対象とした協同主義のクラス、講演、コンサートを実施した。また、ユニバーシティ・カレッジから特定のイブニング・クラスのチケットを2シリング6ペンスで、その他のクラスのチケットも7シリング6ペンスで購入し、1シリングと3シリングで販売した。Sanderson, H., "Educational Note", Morse, E. R. T. (ESRTOM), (ed.), *Reading Co-operative Record*, Magazine of the Reading Co-operative Society, No.99, 1904, p.9. (Reading Central Library)
- 18) Morley, B. J., *op. cit.*, p.42.
- 19) APHEWM, *op. cit.*, *First Annual Report*, p.7.
- 20) T. W. Price, *op. cit.*, p.19-21.
- 21) WEA Reading Branch (The Association for the Promotion of Higher Education of the Working Class in Reading: 以下 WRB と略記), *Minutes Book 1* (1904-15), University of Reading Archive (以下 URA と略記), 374.06/1, WEA Box, 1904.10.1, Conference. ページ数なし。
- 22) Honter, R., "The Local Organization of Working Class Education", APHEWM, *The Formation and Constitution of a Local Association at Reading*, London, 1904, pp.6-9.
- 23) 'Working Class Education, Conference at the Palmer Hall, Reading', *Reading Observer*, 6 Oct., 1904; 'Higher Education for the Working Men, important Conference in Reading, an excellent start', *Berkshire Chronicle*, 8 Oct., 1904; 'Working Education, Conference at Reading', *Reading Mercury*, 8 Oct., 1904.
- 24) *Ibid.*
- 25) WRB, *Minutes Book 1*, 1904.10.1, Conference.
- 26) *Ibid.*, 1904.11.15, Conference.
- 27) Childs, W. M., "The Aims and Objects of the Association", APHEWM, *op. cit.*, *The Formation and Constitution*, pp.13-15.
- 28) APHEWM, *op. cit.*, *Second Annual Report*, p.21.
- 29) WEA は、加盟団体を労働者組織に限定していなかった。WEA の初代代表はオックスフォード大学出身のウィリアム・テンプルであり、初代執行部の議長はオックスフォード大学拡張講義の講師をつとめていたハドソン・ショウであった。
- 30) WRB, *op. cit.*, *Minutes Book 1*, 1911.3.22, Council.
- 31) APHEWM, *Third Annual Report and Statement of Account*, July 1st, 1906, p.13.
- 32) WRB, *op. cit.*, *Minutes Book 1*.
- 33) WRB, Membership Card, Lectures, Classes, & C. Session 1910-11; WRB, Membership Card, Lectures, Classes, & C. Session 1911-12.
- 34) APHEWM, *Third Annual Report*, p.13.
- 35) *Ibid.*
- 36) 大学拡張の問題点については Jepson, N. A., *The Beginning of English University Adult Education - policy and problems*, London, 1973. が詳しい。
- 37) Goldman, L., *op. cit.*, p.127.
- 38) *Ibid.*, p.128-9.
- 39) "First tutorial classes of WEA Reading Branch and University College Reading", T. M. Stenton Economics 3rd Year 1912-13', University of Reading Archive, WEA Boxes. まだ未整理であったため、分類番号はついていない。
- 40) 教師や事務員は仕事の安定性や高い給料、肉体労働ではないという点から下層中流階級ではないかという指摘もあるが、当時の彼らの生活文化は労働者階級に属するものであった。
- 41) UCR, *Report of the Council to the Court of Governors for the Year ended September 30th, 1910, Session 1909-10, 1910*, p.78.
- 42) UCR, *Report of the Council to the Court of Governors for the Year ended September 30th, 1911, Session 1910-11, Accounts*, 1911, pp.38-9.
- 43) Morley, E., "Looking before and after, reminiscences of a working life", University of Reading Archive, Edith Morley Papers, Boxes 48/7/4, p.131.
- 44) *Ibid.*, p.129.
- 45) UCR, *Session 1910-11, Accounts*, pp.12-3.
- 46) First tutorial classes of WEA Reading Branch and University College Reading, T. M. Stenton Economics 3rd Year 1912-13', *op. cit.*
- 47) Morley, E., *op. cit.*, p.129.
- 48) *Ibid.*, pp.129-130.

(主任指導教官 安原義仁)